（十八日夕刊）
磐城新聞
休刊 大祭日 第一第三日曜
定價 一部二錢 一ヶ月六十錢 郵税十五錢
廣告料 壹行六十錢 指定廿錢增
發行兼編輯印刷人 遠沼能輔
福島縣平町田町十六番地
發行所 磐城新聞社 電話五六四番

平上野間 超特急試乘の記
燕號の記録を破つた試運轉
百パーセントの成功を体驗して
平機關庫事務所 花澤輝一

何よりも速力である、現代のあらゆるものはスピードアップである、列車の速度向上に鐵道當局は馬力をかけてゐる、ことは時代に最も即した方策である、スピードアップと云ふ聲は至る所で耳にする總てのものが文化の頂上へ向つてスピードアップしてゆく、これは文明人の義務であり幸福であると思ふ、かうして種々な方面のあらゆる能率が合理化に向上されてゆく、そして吾々は生産された價値ある時間を有効に消費して意義ある人生が築いてゆくことが出來るのである

純國産關關車 C51169號

平水戸上野を三時間一分で走る計畫の超特急列車の試運轉の日は來た十七日午前九時五十分最新式純國産機關車C51169號が鋼鐵製の九輛（食堂車一輛、二等車二輛、三等車六輛）を連結し出發の合圖令や遲しとゆるい煙りをあげてぐつと反り返つてゐる、機關車には平機關庫より選抜された鈴木八五郎、機關手大和田助手、中島助手が乘込み山岸運輸課長淺野機關車掛長、岡本水戸所長等が續々とナッパ服のイデタチで乘り掛けた、正に十時十分豪怪な汽笛一聲、スウット、スベルが如くフォームが後へ退る

走ると申さうか 飛ぶと云はうか

一秒一秒、と增す速度か上昇する、リフトの様に脊中へぐん／＼と應へる、（あ）だしたなと思ふと忽ち綴フォームが能、の様に掠めて湯本へ辷りこむ、沿線の人群誰れも誰れも手をあげてゐる、子供達は萬歳を唱へてゐる、走ると申さうか飛ぶといようか、朝の忙しい混雜時間を超特急は申譯ない程、無關心に突切つて飛んで行く「東海道を走るつばめ號よりも早い」（五籽の速度だ、轟々と、黄塵を卷きながら疾驅する、勿來海岸の波音を聞き分ける時間もなく、タラッタタ、タラッタタ、七五ポンドの軌道上を無際限に走る、走る、電柱は飛ぶ、松林は走る、それもこれも、超特急い窓では一刷毛に消ねてゆく、何んと痛快だらう快速無停車の運轉だ、ノンストップ、何んと云ふ近代的なひゞきだらう各車內に裝置された新器をにらめてゐる掛員達の目も一層緊張しくゐる、車內の何處を歩いても愈々佳境に入つたスピートを味到しようと各々片唾を呑んで待ち構へる

洗面所で安全カミソリが使へる

一般から心配されてゐた動搖は豫期に反して斷い位、洗面所で安全カミソリも樂に使へる、食堂車にビールの空ビンやコップに一パイ水を入れ、試驗をしてゐるかこぼれない「超特急試運轉百パーセント成功」の內容がもられてあるのも嬉しい、高萩――助川――下孫とみんなカッとばして水戸だ、十一時二十四分一秒着三分二十四秒早着、平を出發してよりダッタ一時間十四分、列車運轉の關係上水戸に一時間休息、わが超特急は十二時三十分定時の發車だ、あと一時間五十分位で大都會へ走り出す、水戸構內のジョイントを彈む車輪の響音が無類の機關銃が火蓋を切つた、ようだ食堂車はあつても何も賣らず、腹は大して減りもしない、あまり彈丸の様に走るので頭の中が呆うとしてゐる様だ

目も鼻もあかれぬ超々スピード

窓から頭をだすと耳がつゝと聞こねなくなつた、反射的に眼をつむる、奈落へ急大直下アブナイト戸をしめる、猛烈なスピートを繰返しながら砂塵を捲上げて不人情に各驛を通過してしまう、わが超特急は午後の陽を沿びて――失業とか、不景氣とかには丸で馬耳東風に走るだけ走る、一〇六籽の最速度となつた、土浦――霞ケ浦も飛び、油と、汗だらけの、超特急が珍らしさうに見てゐる人群の群を砲彈の様なウナリで走つてゐる、我孫子――北千住もすぎ上野に近かすきつゝある、速い／＼、忽ち南千住だ、上野だ、五分早着す、午後二時十分着215籽を三時間一分十二秒で走破したのだ、東海道のつばめ號の記錄を破つたのだ、平、上野間を一散に驅けぬけた一九三〇年の十一月十七日、これこそスピード時代の尖端だ（5・11・17車中にて記）

――（今月今日）――

△賀茂眞淵に從三位を贈らる近世に於ける國學の勃興はその力に負ふ處最も大である（明治三八）△宇多川元隨歿す、江戸の人蘭醫蘭學者である「西說內科選要」十八卷を著はし時人を驚かすこれ實に和蘭內科譯書の濫觴となす彼幼時學を好まず三歳迄は一字一句も知る事なかつたと云ふ（寛正九）△初めて大藏省洋式簿記を始む（明治八）△大正卜傳の稱ある永井利胤翁宮中奉仕引退（大正一五）

拈華微笑

◇首相の所謂吉砲に「雨過雲凝曉、牛鬪、數峰如畫碧サイ鬼」の概
◇三秒で電柱一本凄げね超特急
◇名映畫「無憂華」を見度いファンの財布が有憂華とは情ない
◇た白粉や支那蒋麥代を節約して村の病舍へ寄附した感心な女性
◇北目と胡摩澤どうやら協議上の離婚が出來そう
◇サンマ四十萬、さあ今夜から各家庭でスモークスクリーンだ
▽……△

講談
赤鞘安兵衛
東京 桃川燕二演
村田月光畫
（一〇四）

紋次郎が……「旦那様は必祝ひだ心祝ひだと仰せられますが何う云ふお喜び事でござゝますか」……「夫れは聞くな、明日になれば判る、それから紋次郎これは差古した品で、殊には老人向其方には似合ふまいが遣はすに依つて取つて置いてくれ、杢平之れは前に遣はす」……「へゝ紋次郎さんは何んですが、下郎にまでれ祝ひを下さいますとは有難うございます」――「紋次郎ゝ杢平も此品物を受納めて其方へ引いてへれとゝに金子が二十兩ある、是れも兩人にて分けまするやう」……「旦那様これは何ういふ思召でございますか、た祝の筋も分らずに垢付を下さるばかりか、私共には過分な大枚の金子、何となく頂き憎うございます全體何の譯で」……「其次第は明日になればわかる、仔細はない形身と思つて取つて置け」……「旦那様は仔細は無いと仰せられますが、仔細ある事と存じます形身と仰つしやるも變で、た喜び事に形身はありますまい」……「ウーム成程、併し拙者は斯様な老人明日ありと思ふ心の仇櫻、夜半に嵐の吹かぬものかは、人は老少不定だ、丈夫なものもポックリ往生せぬとは限らぬ、それで形身になるかも知れぬと思つたのだ取つて置け取つて置け」………「どうも氣掛りで快く頂戴する事が出來ませぬ、明日仰つしやるも今晩仰つしやるも同じ事、た喜びの次第をた聞かせ下さい」流石に六郎右衛門の若黨澄む水でなくては淸い魚は育ちませぬ六郎右衛門此の時盃を下に置き――「紋次郎そちは若黨などに似合はぬけなげな奴だ、斯くばかり我等を思ひ呉るゝものを隱して置くも不都合、それでは申し聞かすが實は明日牛込高田の馬場に於て果し合を致す、逐天したる村上庄左エ門兄弟より今日果し狀を付けられた、察する處先方は多勢の助太刀を頼んで出て參るに違ひない、庄左エ門の手の內は既に承知兩人だけならば恐るゝに足らんが多勢の助太刀ありとすれば、必ず先方を討取ると極める譯にはならぬ依つて討たるゝつもりで赴くのだ、只今の聯がの心付けは形身酒盛は今生の別れの盃、斯様な次第だ」………「えゝッ、先刻の番町からの使ひと申したのは、村上兄弟からの果し狀」――「如何にも其の通り」……「旦那様それはた合點が行きません」――心得違ひ、庄左エ門兄弟は殿様に暇を與れと立退いた奴早速表方へた屆け遊ばした方が宜しいではありませぬか、然うしますればお目付方大勢を連れて御出張になり、村上兄弟は上の手で取押へる事になります――」………「如何にも其の通り、拙者が屆けを出せば果し合をなさずとも濟むがそれは自分の安全を計るだけで武士の面目が立つ譯にはならぬ、果し狀を付けられた以上尋常に勝負をするが武士の道、依つて高田の馬場に有無の勝負を致す積りで返書を與へた、此上は兎や期う申すな」――「さう堅い御決心ならば何も申しませぬが、此上のお願は手前もた供にた連れ下さいまし」………「先方に於て助太刀は一人も無いと申して來た、假令其方でも召連れるのは卑怯に當る」……「卑怯と云ふ事はありませぬ、先方は無錄の浪人、供一人連れなくても好いでせうが、旦那様は槍一筋の御身分、助太刀をするのではないた供申すに差支へはありませぬ、是非た供の儀を……」「ウム助太刀をせん、見てゐると云ふならば大方見物人もあらうそれならば苦しうない」……「旦那様紋次郎さんをお連れ下さいますなら、私めもた供を仕りたう存じます、何處へお出かけの時でもた供は杢平と極つて居ります、明日に限つて、紋次郎さんがお供とは

明日の吉凶
舊九月二十九日 新十一月十九日

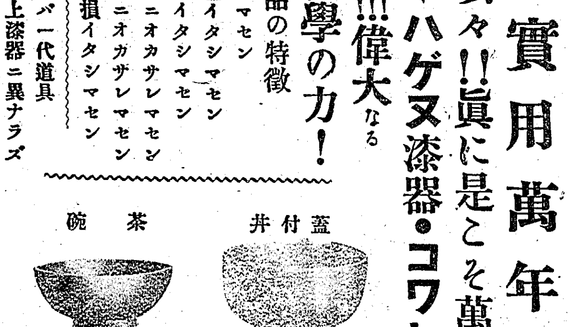
▲一白の人 身最負の行ひあれば折角の吉日も凶に變す▲二黒の人 元氣も養ひ遲くとも健全に携まざれば吉▲三碧の人 難關前に横はる越るの勇氣をこして立べし▲四綠の人 壯圖半ばにして外邪に妨たげられ易し注意▲五黄の人 心を虚ふし能く人言をいれて平和なれば吉▲六白の人 午前の滯り午後に至りて自ら通達すべし▲七赤の人 勞少くして努多き日旅行企業入學何れも吉▲八白の人 隆運の日增榮又は事業擴張は無一の好期▲九紫の人 大事な所までこぎつけて後方の足らざる日

米も安いが麥も安い
つぶし麥 一升十錢
丸麥 一升十三錢
福麥 一升十五錢
平町土橋 マルマン商店 電話四八九番

愈々御待兼の
女流浪界日本ノ三羽烏！
松平八千代孃大一行
◎來ル十九日ヨリ二日間午後五時花火合圖開場
◎前賣割引券興行に限り一切なし
平土間 大人金三十錢
聚樂館

吉田眼科病院
平町紺屋町

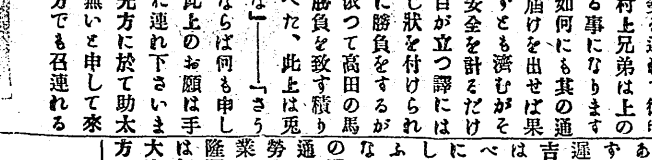
專賣特許 實用萬年漆器
好評嘖々!!眞に是こそ萬代食器！
▼ハゲヌ漆器・コワレヌ陶器▲
◎見よ!!!偉大なる化學の力！
◎本品の特徴
絕對……ハゲマセン
絕對……變色イタシマセン
絕對……變形イタシマセン
絕對……熱湯ニオカサレマセン
絕對……酸類ニオカサレマセン
加之容易ニ破損イタシマセン
◇一度購ヘバ一代道具
品位ハ最上漆器ニ異ナラズ
日本化學漆器株式會社
東亞化學工藝株式會社 製品器ブトン一名萬年漆器



釜屋商店器物部
福島縣平町

宮內省御用達

ヒゲタ醬油
釀造元 銚子醬油株式會社
特約店 廣瀬支店
平町田町
電話五四番

專門眼科醫師擔任
無料檢眼
無料檢眼券 御利用下さい


信用アリ正確味萬點ノ時計
御客様本位ノ眼鏡部
平 壹 常盤屋時計店 電三三九

磐城刀劍陳列大會

拜啓初冬之候益々御多祥之段奉賀候
陳者二十三、二十四、二十五日の（三日間）平町三町目磐城銀行階上に於て刀劍陳列會を開催し本邦刀劍鑑定大家本阿彌光遜先生に來平を乞ひ講演會並に指導を爲す汎く同好の諸士奮つて御申込あらん事を望む
鑑定・出品・即賣御希望の御方は十一月二十二日迄に平町二町目磐城刀劍保存會事務所へ申込下さい 但し武器・具足・書畫等出品觀迎 但し保管方は會員總出にて保管致候

規定
◎出品料 無料
◎即賣品 會員外の方に限り一刀に付保管料金五十錢
◎但し賣買手數料は五分申受候
◎鑑定料 一口金參圓
但し小札を附する事能はざる物品に對しては金壹圓申受候
◎鑑定 本阿彌先生
◎會費 會員外の方に限り金壹圓（晝食付）但し一回
◎講演日 十一月二十三日 午後一時より
◎日時 十一月二十三日より二十五日まで三日間
（毎日午前九時より午後八時まで）

御觀覽の御方は無料です
申込所 磐城刀劍保存會事務所
平町二町目 長谷川椅子店內

顧問 酒井國三郎
同 山崎與三郎
同 諸橋守治
同 長壽男
會長 加藤丈夫
副會長 長谷川豐吉
幹事 佐々木龍若
同 柏原秀藏
同 坂田藤助
同 青天目增藏
同 草野央

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切叮寧に御教授いたします、た遊びがてら御出で下さい。
平町五丁目十六番地
須藤まつの

胡摩澤の別れ話に 未練無い北目側
經濟其他事情を異にすると 同様の希望を町長に陳情す

平町胡摩澤町はさきに委員を擧げ從來同一の行政區となつてゐる北目町から分離したい希望で町長に陳情した旨既報の如くであるが一方北目町では今十八日委員會を開き協議の結果之亦分離を得策なりとし區長代理新井滋造外十七名委員連署の上左の陳情書を町長に提出した

平町第十五區を好間江を以つて二區に分離し各行政區を獨立せしめられ度儀に付陳情

平町第十五區は字杉平の一部胡摩澤一圓字櫻町の一部字六人町及北目一圓を以て設定せられ居候處區勢の發展は近來著しきもの有之設定當時の約二倍に近き戸口を有するに至りたるのみならず區中間を貫流する好間江は胡摩澤北目を分界し地勢上斷然獨立の觀あるのみならず胡摩澤方部と北目との字財政は因襲的關係より全然之れを異にし恰も獨立己の如き實況に置かれ且其祭事の如きも各々趣を異にし各別に執行する等表面は同一行政區なるも其の内容に至りては各々因襲經濟同一ならず且近時戸口の激增は將來行政の執行上より見るも區民融和團結の實情より考へるも洵に機宜に適したる儀にして茲に十月二十七日付を以つて字北目町に民一同陳情の通りに候標記の件御採納相成度第十五區委員會の決議に依り連署を以て及陳情候也

神道無念流の達人 哀れ淋しい臨終
免許皆傳の老劍客が 平の行旅病舍に逝く

當時住所不定無職元劍道師範神道無念流免許皆傳者中村敏行(六〇)は七日行路病者として平町役場で收容保護中の者であつたが十七日午前八時頃行路病者收容舍で死亡したが死の直前懷中よりおもむろに神道無念流の免許皆傳書の一卷を取出して「この一卷を東京西神田の大野に手渡しをたのむ」と遺言の上瞑目したが生存中語つた處によると同人は武道を岡山藩士劍道指南秋山甚五衛門に文を同藩の碩儒山田天鬼に學び廿三歳で免許皆傳となり同地で町道場を開いて數百人の門人を取立て居たが其の後時代に取殘されて零落し東京の三崎神社の庭掃除番に成り下り三年前貯金四百餘圓を持て唯一の親戚である富岡町佛濱前川中村次三郎を尋ね厄介になつたが最近中村は破産の結果一家離散の悲境に陷つたので再び東京を指して歸る途中懷中無一文となり行路病者として平町役場に收容されたもので目下西神田留大野某に照會中であると

石川署長歸廳

全國税務署長會議に列席のため過般來上京中であつた平税務署長司税官石川八十吉氏は今十九日歸廳の豫定であると

視學委員視察日割
石城郡關係分

本縣野口視學委員は左の日割で郡內小學校の視察をするが尚ほ同委員たる木村磐女校長、近藤磐中教諭の視察日割は左記の通りである

師範學校教諭野口彰氏

△十二月二日石城郡勿來校△三日錦校△五日湯本校△六日上遠野校△七日內郷校△八日草野校△九日豊間校△十日小名濱校

磐城高女校長木村寅三氏

△十一月十八日相馬郡大甕校△十九日小高校△二十日浪江校△二十一日新山校△廿二日富岡校

磐中教諭 近藤廣記氏

△十一月二十四日田村郡中郷校△廿五日御舘校廿六日岩瀬郡須賀川第一校△廿七日仁井田校△二十八日長沼校△廿九日牧本校

カフエーの暖簾を吹き捲くる空つ風
之では到底やり切れぬと押し切り策を考究中

平町の料理店營業者は現在二十八軒酌婦七十二名カフエー十四軒女給五十二名を有するが是等營業者は昨今の不景氣風に吹き捲くられ收益の減少著しく酌婦月末稼高最高二百圓最低二十圓平均百二三十圓見當で大正七八年好況時代と比較するに約三分の一の減少振りで從つて營業主の儲けも少くカフエーも是と同樣に支那そば其他の腹拵への目的のものが歡迎される始末で中にはコーヒー、アー一杯程で蓄音機の新譜をかけ小一時間も大騷ぎし歸ると云ふ樣なこの界隈で一番鼻つまみの所謂ウオータマンが多くなり一部營業者は營業政策上女給一ケ月稼高二百圓に達すれば衣物金時計給與する獎勵制度も最近その恩典に浴したものがない位でその結果この方面の營業者に税金の滯納者が續出しその筋では昨報の如く昨十七日からこの種滯納者の財産差押へを施行してゐるが當業者は昨今の如き不況時にも好況時と同樣税金を賦課されては到底立ち行かれぬからと縣當局者に右事情を陳情の上減税を歎願すべく目下夫々協議中であると

奇特な看護婦二名
關係町村長が表彰

平町南町清野キヨ女史主宰する平看護婦會員國井あさえは永い間好間村隔離病舍に勤務中病舍に電燈設備がないのを遺憾とし自己の所得中から電燈設備費として金十圓を寄附したのでこの程金成同村長から感謝狀を贈られたが尚ほ同會員江尻わか子は前後百餘に亘り四倉病舍に勤務中終始懇切叮嚀を以て患者を劬はり他の模範たるものあるとて金一封に感謝狀を添え新妻同町長から表彰された

平消防活動
常設夜警開始

平消防組では二千五百圓の豫算を以て舊警察署跡に機械置場組合詰所等を新設計劃中の處此の程愈々決定近く起工の筈であると云ふが同時に來月中旬頃迄常設消防の夜警を行ふ筈であると

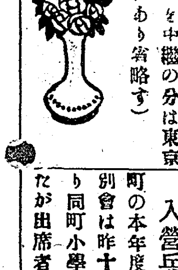
ラヂオ番組 十九日(水曜)

東京 JOAK

△午前七時ラヂオ體操 △午前九時氣象通報 午前九時十分日用品値段料理獻立、白菜のケンチャン煮、宇多繁野發表 △午前十時三十分家庭講座、牛乳の生産から配給まで、農學博士岩住良治 △正午時報 △午後零時五分獨唱と管絃樂、獨唱川村つた子、東京ラヂオオーケストラ、指揮奧山貞吉、一、圓舞曲(バチオ)アルディティ作曲、二、歌劇(お蝶夫人)より(獨唱二曲)プッチーニ作曲、堀内敬三譯詞 イ、ある晴れた日 ロ、可愛い坊や 三、ブラームス名曲集、ランゲイ編曲 四、獨唱 イ、悲しみの歌、マスネー作曲、堀内敬三譯詞 ロ、ソルヴェーグの歌、グリーグ作曲、堀内敬三譯詞 △午後零時四十分ニュース、放送局編輯、東京朝日新聞社警視廳 △午後二時家庭大學講座、植物と人生、第八講、竹類(二)理學博士川村清一 △午後三時四十分氣象通報 △午後四時ニュース、放送局編輯 △午後五時四十五分職業紹介事項 △午後六時(子供の時間)お話、紋テキスト二〇ページ、文學博士沼田賴輔 △午後六時三十分英語講座、初等科(二二)岡倉由三郎 △午後七時ニュース、官省公示事項、放送局編輯部新聞社 △午後七時二十五分、講談の夕 一、煤竹賣、一龍齋貞山 二、幸助餅、桃川若燕 三、樋口十三郎神前の義心試合、田邊南龍 四、赤尾の林藏、神田伯龍 五、世直し源藏大當利、大島伯鶴 △午後九時四十分時報、ニュース、放送局編輯、氣象通報

仙臺 JOHK

午前九時十分料理獻立、札牛肉球、クーロヨー、赤堀旺宏發表 零時四十分ニュース、氣象通報、告知事項 五時四十五分今晩の番組豫告 七時ニュース、氣象通報、番組豫告、告知事項 九時四十分番組豫告、告知事項 (AKを中繼の分は東京の部にあり省略す)



江名小名四倉で 秋刀魚四十萬尾
悲觀續けの各濱 俄に活氣を呈す

石城各濱の秋刀魚は例年に無い不漁で各濱一帶悲觀の態であつたが今十八日江名濱十五萬、中之作四萬、小名濱十四萬、四倉八萬の各漁獲あり各濱水揚げ相場平均一錢二厘市場相場一錢五厘內外で之れがため各濱一帶漸く活氣を呈して來た

田町鈴木家
結婚披露の盛宴

平町田町鈴木重助氏息光四郎氏が同町上田病院長上田耕作氏令妹長子孃を迎へた結婚披露宴は昨十七日午後五時から末廣に於いて催されたが出席者は佐藤政友會縣支部幹事長野崎縣議、漆畑辨護士、安齋醫院長其他數十名媒酌人鈴木唐平氏から新婦は先年磐城高女を卒業後家庭に在つて女藝一般を習得する傍ら令兄を助け上田醫院今日の地步を築き上げたに就ての隱れたる功勞者であるとその人物を紹介し次で來賓代表者佐藤庄太郎の祝辭あり盛會裡に八時散會した

內郷村荒し
鼠賊檢擧さる

內郷村宮無職目黑平三郎(三三)は去る十二日午後八時頃同村御廐高根澤某方から洋服ズボン一着外衣類數點同十四日午後九時頃同村越賀炭礦機械置場から雨合羽を窃取した事其他數件を平署に探知され目下取調中

阿部課長出發

今回平税務署直税課長より郡山同上へ榮轉した阿部重次郎氏は二十二日午前八時五十分發の磐越線下り列車にて出發赴任の筈

秋季撞球會
二十三日マルトで

平町田町マルト撞球場では十三日午前十一時から秋季撞球大會を開催するが會費は晝食代として五十錢を申受け一等より十等までの優勝者に賞品を呈すると

投稿 寄書歡迎

無憂華を觀る

○

此の映畫では出演者の技巧とか監督の手法とかを拔かなければならない、此の映畫は九條武子夫人の記錄であり、武子夫人は如何なる仕事を爲し遂げたか、如何なる意志の人であつたかを寫實したものである

前半は姫としての生ひ立ち大谷邸に於て撮映したもの、後年は九條夫人としての海外にある夫に對する思慕を佛の力に依つて抑さへ、彼の大正十二年の震災となるや羅災民の慰問救助に努め、亦三河島の貧民窟に貧民を問ひ救助に努めたなど高貴の人として夫人の採つた日常は實に敬慕させずにはおかないものであつた

最後に貧民診療院を設け爲めに過勞と病を得て逝去するが夫人は一生を通じて淋しき人であり、淚多い人である事を此の映畫に依つて知る事が出來るであらう

武子夫人に扮演する三原那智子氏の出來榮は實に感服するものがある

(平町○△生)

○

生前の武子夫人を色々に誤解喧傳された、それは夫人は十年もの夫と別居生活に對するに初められたものである。夫人としても夫に對する思慕、夫婦としての愛を多分に持つてゐないとは言はれない、夫人の日常生活はそれである斷言することは餘りに夫人を冒瀆したことになるが只夫人は淋しき人であり、淚の人であると云ふ事だけは斷言出來る

東亞社は餘りに原作に捉はれたやうだそれは武子夫人の意志をその儘取入れた事にもならうが一般大衆興業價値はゼロである、此の映畫は映畫として觀るべきでなく武子夫人に接する意志の下に觀るべきである。其處に此映畫の價値があり東亞社は絕對誇り得る事が出來るのである

(内郷乙男投)

平消防組の非常召集近し？
合圖の一つばんにゆめ驚かぬ事

荒井平署長は近來漸く火災季節に入つたので管內消防組の機能に一段の完全を期する爲め過般來各町村に亘り疾風迅雷的な各消防組の不時召集を行ひ夫々好成績を收めてゐるが平町でも井上組頭最近の緊張振りから觀て極めて近々中同一の召集が行はるゝものゝ如く觀測さるゝ節ありその際は昨報の如く合圖の一つばんを打鳴らすので火事と誤つて驚かぬ樣されたいと

四倉通信

自轉車から轉落重傷
四倉の會社員

四倉町停車場前東部電力四倉發電所勤務高山林平氏は昨十七日午後一時半頃停車場前通りを自轉車にて通行中タイヤが石に躓いた調子に地上へ投出され顏面に重傷を負ひ早速吉田醫院に入院加療中であるがなか〳〵の重傷だと

入營兵送別會 四倉

四倉町の本年度入營兵六名の送別會は昨十七日午後四時より同町小學校に於て開催したが出席者百餘名在郷軍人石田分會長の開辭新妻町長小學校長、警察署長等の送辭、入營者代表の答辭あり續いて諏訪神社に於て鈴木神宮の修祓あり午後五時半萬歲三唱散會した

電話賣り物
姓名在社

理髮料値下決定
けふから實行

四倉町理髮業組合總會は昨十七日午前九時より四倉警察署樓上に於て開催理髮料値下げ問題に就き協議の結果滿場一致料金各五錢宛を下げる事に決定十八日より實行する事となつた

青年團總會
四倉町青年團 分團新設を決議

秋季總集會は昨十七日午後一時より同町小學校に於て開催協議の上本町、仲町、新町に分團新設し各分土に分團長一名幹事三名を置く事に決定午後四時散會せりと

童謠詩 櫟ばやし
東京 加藤輝雄

櫟ばやしに
寢ころべば
近くで話す
人のこゑ

ぽか〳〵午後の
日が溜り
枯れ葉を風が
ならします

あをく透つた
空のいろ
上と下とを
雲がとぶ

平町人事

△出生 平町研町十一金成松次郎二男照二 平町六間門神谷村片寄堂の作三二鐵道員吉田茂喜長女和子

▲死亡 平町材木町三六東京淺草區新吉原江名町一丁目十笛川壽枝(三三) 平町田町六六宮城縣伊具郡金山町七五館內トミ子(五)

△結婚 平町田町十六鈴木光四郎(二四)同町南町三一上田長子(二三)

乳の出る大妙藥アリ 平五 山野邊藥局

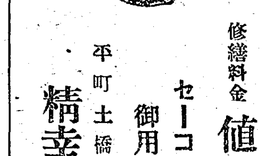
芳醇無比 白馬の雪 松本德一吟釀 平電話二八五

新築落成 耳、鼻、咽喉科 氣管食道科(專門) 平町南町(舊診療所向)電一七〇番 大和田醫院 大和田郡司 自炊の便あり

一圓十錢のフランス マルソー會社元詰 マルソー、ブランク マルソー、ルージ 生葡萄酒 優良にして安價賣行き飛ぶが如し 平二 西村屋藥舖 三番

毛糸編物講習會 期日 自十一月二十三日 至十一月二十九日 七日間 毎日午前九時から…午後四時まで 會費壹圓也 カギ針、棒針、手編器、なんでも御希望の品を個人教授致します 平町 平陽女學校講習會

皆樣の精幸堂時計 修繕部 共存共榮をモットーとする 修繕料金 値下斷行 セーコー堂へ御用命の程願ます 平町土橋通り 精幸堂時計店



夜間診療 胃腸 梅毒 内科 十二指腸虫病 專門 淋病 婦人病 皮膚病 專門 内科部 外科部 松村胃腸花柳科醫院 (平南町電話一〇七番)